

【茶】の【少雨・干ばつ】対策について

<4～9月>

宮崎県総合農業試験場専門技術センター

(1) 予想される被害状況

- ・ 収量・製茶品質の低下。
- ・ 新芽の生育遅延。

(2) 事前対策

- ・ 成木園では、5～7日間隔で10a当たり30t程度散水する。
- ・ 一番茶後に中切りを行った茶園では、新芽の生育遅延や残葉の日焼けを防止するため、成木園同様に散水する。
- ・ 新改植茶園や幼木園では、株元への土寄せや敷き草等を行い乾燥を防止するとともに、茶株元へ10a当たり20t程度散水する。

(3) 事後対策

- ・ 降雨があり、土壤水分が確保されるまで、上記の対策を継続する。